

最新導入機種のスライド丸鋸盤「ユニカセーフ」を紹介 ソースストップ安全機構の採用で作業時のケガを防ぐ

(株)フクモト

(株)フクモト(愛知県名古屋市中区、福本寛之社長)は6月13日と14日の2日間、愛知県名古屋市天白区の同社の平針倉庫で「フクモトフェア2017&ユニカセーフ発表会」を開催した。期間中は33社から約100人が来場した。

今回のフェアでは、イタリアの木工機械メーカーであるグリッジオ



ユニカセーフの安全装置の実演

(GRIGGIO)社の安全機構付きスライド丸鋸盤「ユニカセーフ」(UNICSAFE)が初登場。刃物の回転時に人間の指の存在を感知すると刃物が自動で急停止し、下降して格納されるソースストップ(SASTOP)社の技術を導入。「ユニカセーフ」は2015年のLIGNA展示会で発表され、ソースストップ社の特許を組み入れた大型の板の加工に対応した加工機。リップフェンスが手動の「400E3200」と、鋸軸の傾斜と昇降、リップフェンスに自動調整機能を付与した上位機種の「400DIGIT3AXES」の2台を揃えた。

作業者の安全に配慮して開発されたソースストップ社の技術は刃物に微弱な電気信号が流れており、回転中の鋸に誤って指が触れた場合、安全装置が瞬時に作動して鋸の回転を止めて下降する構造になっている。「ユ

ニカセーフ」にも同様の安全機能が備わっており、特殊なシリンドーが高压エアで作動して鋸を下降させる。このために安全装置作動後の部品交換が不要になる。安全装置の反応速度は1000分の5秒であり、人体に危害が出る前に鋸が格納される。会場内ではウインナーを人間の指に見立てて安全装置の実演を行った。

グリッジオ社の傾斜スライドバンドソー「SW640」は傾斜切断が可能なスライドテーブル付きバンドソー。従来の機種はテーブルを傾斜させるが、このバンドソーは鋸が傾斜するように構造が改良されている。鋸は45度まで傾斜。角度0度で高さ500mm、傾斜角度45度で高さ300mmまで加工できる。スライドテーブルも軽い力でスムーズに動くため、長尺の材料や厚手の材料のカットも容易になる。帯鋸の種類を変

えれば樹脂やダンボールといった木材以外の材質の加工にも対応する。会場内では山本ビニター(株)(大阪府大阪市天王寺区、山本泰司社長)の高周波接着機器も併せて出展。フランスシユ構造のパネルを短時間で接着する高周波接着機「ボンデックス(BONDEX)9R」は省スペースの設置が可能。また、高周波の小型木箱用接着機「テックボックス」や可動式のスポット接着機「テクノガン」及び「テクノアイロン」など、小型の製品や現場作業に合わせた製品を用意。同社では高周波接着機の一部製品の3年間無償保証を打ち出しており、長期間の保証によってユーザーに安心して購入できるメリットを訴えた。

同社ではソースストップ機能の加工機は年々販売数が増加傾向にあり、消費税増税前の駆け込み需要期には年間20台以上販売した実績がある。その後もコンスタントに年間10台以上注文があるため、今後は日本で売れる仕様を調査しながら「ユニカセーフ」などの安全機能を付与した製品の販売に力を入れていく。なお、「ユニカセーフ」は5台在庫する予定であり、即納も可能となっている。